

高野町へ、自分を見つめ「心を癒す旅」に。

今から約1200年前、弘法大師は「八葉の峯」と呼ばれる8つの山に囲まれたこの地を連の花に見立て、真言密教の根本道場として開創しました。高野町のある紀伊山地は、神話の時代から神々が鎮まる特別な地域と考えられていました。

平成16年7月7日、「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産に登録されました。和歌山、奈良、三重の三県にまたがる紀伊山地の自然がなければ成立しなかった「山岳霊場」と「参詣道」、及び周囲を取り巻く「文化的景観」は、世界でも類を見ない資産として価値の高いものです。さらに平成21年3月、フランスの三ツ通信社が発行する緑のガイド日本版において最高の三ツ星評価を受けました。

国宝、重要文化財などを多数有する高野山は、標高約850メートルにある日本有数のパワースポットとして、宗派や階層を超え大勢の信者の方々や世界中の人々が参拝に訪れます。



おーじとしずくとたなっちの

あの町この村ぶらり旅

Vol.02 高野町特集



高野町へのアクセス

車の場合
 国道24号→笠田
 ↓国道480号・370号・480号
 ↓高野山 かつらぎ町笠田から約50分
 国道371号の橋本→高野山は狭い山道なので480号の方がオススメ☆

電車の場合
 なんば駅(南海高野線)→極楽橋駅
 特急で約1時間20分、急行で約1時間40分
 ↓ケーブルカーで高野山駅
 JR西日本でお越しの際は、新今宮駅、橋本駅で南海電鉄に乗り換えてね！



新緑の頃に、青葉祭り。

毎年6月15日に全山をあげて催される青葉祭りは、宗祖である弘法大師の生誕を祝うお祭りです。華やかな花御堂渡御(はなみどうとぎり)というパレードと、地元のことろに、町民たちに曳かれた山車に乗った若葉娘による散華が行われ、鳴り響く大師音頭に合わせ、日本各地から踊りや太鼓も加わり、メインストリートを練り歩きます。



聖域に灯る、幻想的な光。

「スズク祭り」は、先祖さまをはじめ、奥之院に眠るすべての御霊をお盆の季節にお迎えし、供養するお祭りです。毎年8月13日の夜、の橋から奥之院・燈籠堂までの約2キロメートルに約10万本のろうそくの光が灯されます。



高野山に春を告げる山開き。



毎年3月の第1日曜日、高野山の山開きと四国霊場開き、招福厄除祈願として、紫燈大護摩供(さいとうおほまぐ)の法要(高野の火祭り)が、高野山の僧侶や修験者の方々により厳粛に営まれます。

雄大な自然とクラシックカー。



「紀伊山地の霊場と参詣道」と20世紀を代表する古典的自動車との融合をテーマに毎年11月に行われるワエトロモーターヤ高野山。今では珍しいクラシックカーが全国から2堂に集まり、毎年たくさん愛着家が集まります。

ますます美しい高野山の秋。

高野山では、10月中旬から11月の中旬にかけて紅葉の見頃を迎えます。山内にある各宿坊寺院境内のモミジやイチョウのほか、高野龍神スカイライン沿いのフナヤミスナラも美しい、高野山へ訪れる参拝客の目を楽しませます。



高野町の耳ヨリ情報局

南海電鉄「天空」で高野山へ行こう!
 南海電鉄高野線の「こや花鉄道 天空」は、南海橋本駅から極楽橋駅の区間を運行しています。豊かな自然を感じる電車の旅を楽しめます。全指定席なので、詳しくは南海電鉄のホームページで。



詳しくは高野町観光情報センターにお問い合わせください
バスを利用して賢く高野山を巡る。
 山内全域を往來する南海りんかんバスを利用すると便利。高野山の散策に便利な高野山内1日フリー乗車券を800円で発売中です。

寺院巡りにおトク!

高野山観光協会の各案内所などで「諸堂共通内拝券」を1500円で販売しています。総本山金剛峯寺・靈宝館・大師教会などの6カ所が拝観でき、ちょっぴりおトク。



音声ガイド機も。

金剛峯寺、壇上伽藍、奥之院、高野の町家など、山内の103ヶ所の見所を約90分の音声で解説する音声ガイド機を、1日500円でレンタルしています。

参拝者を導いた巡礼の道、町石道から高野由入り。



高野山へあがるための道は山に近づくにつれて合流し、7つに集約されます。その中で九度山町の慈尊院から壇上伽藍の根本大塔に続く表参道を「高野山町石道」と言い、弘法大師が開山の際に木製の卒塔婆を建てて道しるべとした道です。今では、鎌倉時代に建て直された石造りの五輪塔形の町石が町(約109メートル)ごとにあります。



59町目からスタートするぞい



ヘンテコだ〜さん 見つけよう!



が、頑張れば 長生きできる...

写真は、布袋掛け口。かつて弘法大師が袈裟を掛けて休息をとったという言い伝えがあります。この岩の下をくぐり抜けるのと長生きするとか...

歴史の美術館、金剛峯寺。



金剛峯寺は高野山の本坊であり、山内の多くの塔中寺院と全国の高野山真言宗諸寺の総本山です。境内の面積は48,295坪、屋根は檜皮ぶきの大建築。屋根のうえには防火用の天水桶が。大広間のひすまには斉藤等室の筆といわれている群鶴の絵、ほかの間にも狩野探斎の筆といわれているひすま絵があります。ほかにも、弘法大師御入定150年御遠忌大法会の際に造園された、雌雄2頭の龍が奥殿を守って取り囲むように配された500坪余りの石庭「蟠龍庭」は国内最大の大きさ。

見るモノすべてに歴史を感じる金剛峯寺内は、高野山の希少で優れた美を鑑賞できる、歴史の美術館のようです。



金剛峯寺正面



長い廊下



持仏間



大広間の襖には鶴と松の絵が描かれ、斉藤等室の筆



弘法大師を導いたと言われる犬たち



2,340平方メートルの石庭「蟠龍庭」は、国内最大級



花鳥風月を表した網代天井



2,000人以上のゴハンを炊く二石釜

たなつちが気になったのはお台所。多勢の僧侶を賄っていた二石釜という大釜があり、一度に約二石(2000キログラム)のお米を炊いたとか。そしてその昔、天皇・上皇の応接間だった「上壇の間」は総金箔押し、天井は折上式の格子天井書院造り。写真は上壇の間左側の天井。贅を尽くして作られた「花鳥風月」を模した格子天井は、許された人への贅沢だったんですね。



本屋さん、めっちゃ力持ってますよん!

「ねじり石」の言い伝えがある石碑の前で。



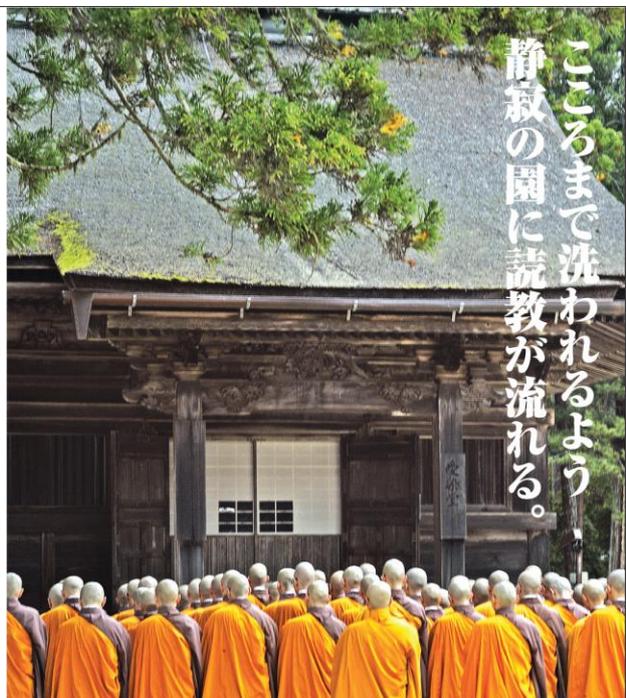
高野山町石道には弘法大師ゆかりの場所があります。その昔、弘法大師の母公が弘法大師に会いたくて女人禁制の高野山にコソ入りしたコトがあったとか。それに気づいた山が怒って、火の雨を降らせました。母公を守るため、大師がむんずと持ちあげた岩だと言い伝えられている「押しあげ石」よく見ると、石に手のカタチが刻まれているような...。ここには「ねじり石」というのがあったそう。それは、弘法大師の母公が高野山に入れないコトを悔しがって、石をねじったという伝説が。親子揃って何て力持ちなんだ...。弘法大師の伝説を垣間見ながら歩みを進めると、ようやく大門に到着しました! これから高野山内に入っていきます。

女人堂と小杉姫のお話



室町時代のお話。ある町に優しく美しい小杉という娘がいました。小杉は、あるお奉行さまと見初められ、その息子と婚約しました。それを継母に妬まれ両腕を失ったうえ、策略でお奉行さまの家を追い出されてしまいました。そして高野山へ向かう途中、幼い息子を失いました...。不幸が続きますが、弘法大師が何度も夢に現れて小杉を導いてくれたのです。その後、小杉は女人禁制だった高野山に女性が泊まれる籠り堂を建えました。これが後に女人堂となりました。今でも女人堂のそばに小杉明神がお祀りされ、参拝客を見守っています。

ここらまで洗われるよう
静寂の園に読教が流れる。



「僧が修行する静寂の園」壇上加藍は、弘法大師が真言密教の思想を具現化した聖地。大日如来を本尊とする高野山は、根本大塔を密教宇宙の中心として展開するスリリチュアルな世界。総本堂である「金堂」や、高さ50mの多宝塔「根本大塔」などの建物が立ち並んでいます。目に映る建物やぶすま絵、仏像などには国宝や重要文化財も多く含まれ、見応え充分。世界遺産高野山の四季折々の豊かな自然を背景に、伽藍全体が強くて大きなパワーとなって迫ってきました。



三結の松



六角経蔵



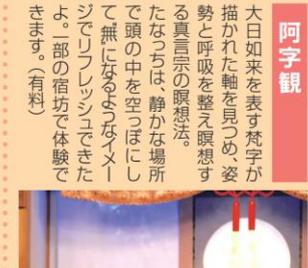
高野山開創1200年イメージキャラクター
こうやくんと根本大塔をバックに!

たなっち高野体験



動行と護摩行
宿坊寺院の本堂で早朝6時頃から行われる動行は、お坊さんの読経に静かに手を合わせます。護摩行はパチパチという護摩が燃える音とお坊さんが操る仏具の音以外の物音もない非常に厳肅な雰囲気。一部の宿坊で体験できます。

阿字観
大日如来を表す梵字が描かれた軸を見つめ、姿勢と呼吸を整え瞑想する真言宗の瞑想法。たなっちは、静かな場所での頭の中を空っぽにして無になるようなイメージでリフレッシュできたよ。一部の宿坊で体験できます。(有料)



写経
「大般若波羅蜜多心経(だいごんぱはらみだしんぎょう)」といわれる経の文字句に願いを込めて写経に取り組みます。心静かに自ら見つめ...とはいえ、なかなか難しく、字を書くことに必死になっちゃった。大師教会や宿坊などで体験できます。(有料)

何だかすごい！
大法会にまだ来てみよう

平成27年に行われる「高野山開創1200年記念大法会の記念事業として現在は礎石だけが残っている「中門」が約170年ぶりに再建されるそうよ。金剛峯寺保有の寺有林から樹齢約300年のヒノキ約70本を2年がかりで切り出し、大法会までに完成させる予定なんだって。



弘法大師在世中には完成を見ず、高野山第二世真然大徳(804〜891年)の代に落慶したと伝えられ、いつの頃からか「根本大塔」と呼ばれるようになったそうです。現在の大法会は昭和12年(1937年)に完成。内部には、胎蔵大日如来、四方に金剛界四仏が安置されています。本来別々の密教経典に説かれていて「胎蔵界」の仏像と「金剛界」の仏像を一緒に安置するのは異例なのですが、両者は根本的には1つだとして、弘法大師の思想を表わしたもので、「根本大塔」という建物名もこれに由来するといふコトです。また塔内の16本の柱には堂本印象画伯の筆になる十六大菩薩壁には真言八祖像が描かれています。根本大塔内は聖域という名にふさわしい、神聖な空間でした。

詳しくは高野町観光情報センターにお問い合わせください。

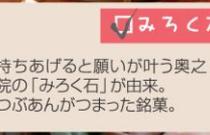
たなっちの高野うまいもん食べ歩きリスト



やきもち
草餅と白餅、2種類の素朴な味わい。開山当時から高野山の名物として知られています。



笹ざし
サバ、サーモン、しいたけ、えびの葉でお寿司を笹の葉で巻いた料理のひとつ。笹の香りがふんわり。



みろく石
持ちあげると願いが叶う奥之院の「みろく石」が由来。つぶあんがまった銘菓。



笹巻きおんぼ
笹で巻いてあるのはよもぎを混ぜた糰子。つるつるモチモチした歯ごたえがたまらない。



初めての精進料理に感動しちゃおうよ！
美味しさをホクホクお楽しみあれ！



仏教では殺生が禁じられているため、五味五法のうちとって作られるのがこの精進料理。女性に優しいヘルシーメニューは、うつつとするほど上品な味わい。高野豆腐やごま豆腐が絶品で、たなっち感激！



宿坊泊、憧れの精進料理。しんしんと高野の夜は更けて。

千二百年前から未来へ。
永劫に絶えることのない祈り。
高野の早い朝が始まる。



2011年、NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国」の主人公「江姫」の供養塔
一番石だけに見あげるように大きい



一の橋から奥之院巡りスタート



眠い目をこすり早起きをした「たなっち」の眼前を、僧侶が御廟へ急ぎます



上) 武田信玄・勝頼供養塔、下) 上杉謙信・景勝霊屋
戦国時代のライバル同士も、時を越えてこの地に

835年、空海が入定した御廟がある奥之院。空海は今も御廟で仏として祈りの日々を送っているといわれています。朝の6時10時30分の2回、雨の日も風の日も毎日変わらぬ御廟に食事が運ばれるのです。「すべての人が、すべての魂が救われるまで祈り続ける」と誓った空海。そのあたたかで広い心がこの地にしっかりと息づいているからこそ、高野山にはたくさんの人々が参拝に訪れるのです。戦国武将から江戸徳川、そして現在に至る名だたる著名人の供養塔や墓石の中を、奥之院巡りは続きます。

ユニークな記念碑や句碑を紹介

芭蕉のほかにも、謝野童子、司馬遼太郎などの句碑、文学碑があるのよ。あと、しるありや、ぶくの供養塔、ロケットで有名な新明和工業、UCOコーヒー、日産自動車などなど、高野山が広く受け入れた墓石や祈念碑がたくさんあるわね。

奥之院の参道沿いにはいくつもお地藏さまが。まずは、高野の風物詩に必ず登場する水向け地藏。美人願望が叶う? 「化粧地藏」など、素朴で可愛い表情に、訪れる人々の願いを託したよだれかけが幾重にも。



上) 加賀前田利家 下) 御夫人供養塔 道を扶んで向かい合う いつまでも仲良くしたいですね



高野山駅からケーブルカーで極楽橋駅。3人の「こころの旅」も終焉へ。

大きな窓から季節ごとの景観が楽しめるレトロな魅力のケーブルカーで極楽橋駅へ。たなっちが驚いたのは、登りつずれ道とときどき車線が2つに別れること。5年ごとに交換するロープで巻きあげられているんだって。

戦国武将ブームに端を発して平成27年の高野山開創1200年記念大法会に向けてこの駅に降り立つ観光客もどんどん増えていきそうです。仏閣を思わせる駅舎のデザインは平成17年に「登録有形文化財」に指定されました。



開放感いっぱいの展望デッキ
ワイドな眺めが楽しめる大型窓

極楽橋駅～高野山駅の間は日本で1、2を争うほどの急傾斜。

取材にご協力いただいた方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。
和歌山県町村会 本企画の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。本企画に掲載しているデータは2010年10月現在のものです。

高野山真言宗 総本山金剛峯寺
高野山開創1200年記念大法会
平成27年4月2日～5月21日



化粧地藏 奥之院の風物詩 水向け地藏 子授け地藏 数取り地藏 瓷見の井戸

高野町の魅力が、まだまだいっぱい!

大滝地区

大滝地区では、山村の暮らしの良さを体験してもらおう「おたき山の学校」が平成22年に開校しました。さらに、秋には熊野参詣道小辺路を楽しむウォーキングイベントなども開催しています。

富貴地区

富貴地区では、秋の風物詩マツタケや、高地を活かしたミョウウチが特産品として有名です。旬の8月～9月に大阪の市場などに出荷されるそうです。ほかに、高野山の精進料理に使われる新鮮な野菜などを栽培している地区でもあります。

さらに、大滝地区は高野山と熊野三山の一角である熊野本宮大社とを結ぶ小辺路が集落を通るほか、「葵の井戸」という徳川家に献上していたとされている美味しい井戸水があります。